2－（－3）＝5

カドクラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

２－（－３）＝５

【Ｎコード】

Ｎ９７８７Ｃ

【作者名】

カドクラ

【あらすじ】

短編ですよー。みじかいですー。みてみてくださいー

「いいか、こういう時はな」
数学の先生が、黒板に書かれた問題をさらさらと解いていく。
２－（－３）＝5
マイナスの数字の引き算する時は逆に足す、ただそれだけ。実に簡単な問題だ。
そんな簡単過ぎる問題を解いた先生は、「どうだ、分かったか？」みたいなことを言いやがる。
分かってない奴なんかいないない。俺は大声でそう言ってやりたかった。
しかし、俺はそんなアクティブな人間ではない。なにも言えずに、さっき俺が描いた犬や猫がある机の隅に、再び落書きを始める。
今度は何を書こう。適当な題材を考えながらペンをくるくる回す。
「なに、また下手な落書き始めるの？」
「え？」
突然声を掛けてきたのは、隣の席の大木だった。
大木といえば変人で有名で、クラスの九十九パーセントの人は嫌っている。それはもう、悪口を普通に表立って言えるほどに。
だからといって、別に俺は嫌っていないのだが、なにせ話したことが一度もない。突然話し掛けられたって返す言葉が見当たらなかった。
そんな俺を、大木はやたら鋭い目つきで俺を睨んでいる。
「な、なんだよ」
大木は何も言わず、じっと俺を睨み続けている。かなり気まずい。
こんな状況の場合、友達に助けを求めるのが一番いいのだが、残念ながら周りは授業に集中していて話しかけづらい。
こういう時は無視するのが一番いいのだろう。俺はそう思った。
しかし、大木とはいえ、女性を無視するのはどうしても気が引ける。

せっかくなので少しだけ、質問をしてみようと思った。
「大木ってさ、趣味とかあるの？」
お見合いみたいな質問をしてしまって、少し恥ずかしい。
すると、俺を睨み付けていた大木がゆっくりと口を開く。
「釣りと映画と編み物」
大木が普通に答えた。あの何を聞かれても「うざい」「死ね」しか言わない大木が普通に答えた。
俺はかなり驚いた。
大木が普通に答えるなんて、実は地球が四角かったというくらい有り得ない。
「あんたの趣味は？」
今度は質問まで。驚きすぎて、感動の域に入っていた。
「俺も釣りかな」
金が無いから、一ヶ月に三回程度しか行けないけど。心の中でそう付け加える。
「なに釣るの？」
「この時期だとメバルとかキスとかマゴチとかかな」
そう言うと、大木は勝ち誇った表情で俺を見てくる。釣りに関しては、長年やっているせいか、そういう態度はイラっとくる。
「大木はなに釣るんだよ？」
大木は机に肘を着き、ふぅと悩ましげな溜息を付く。
「まぁ、最悪クロダイみたいな感じ」
あぁ、すごいムカつく。
釣りは、釣りだけは負けない自信があるけど、ここで反論するのも負け犬の遠吠えみたいで嫌だ。ていうか、俺は一回しかクロダイ釣ったことないし。完全に勝てないし。
大木はそんな俺を軽く鼻で笑う。
すごくムカつくけど、皆が言うような奴じゃない。俺はそう思った。
「大木って、以外に普通なんだな」

思わず口に出してしまう。
大木は不思議そうに首を傾げる。
「なんでよ？」
「いや、その……結構、大木のこと嫌っている奴多いじゃん。だからさ、変わってるのかなぁって」
「それは、あいつらが変わってるのよ。だから、普通な私を理解できないの」
そう言う大木は表情一つ変えない。
一見、大木の言葉は強がりに聞こえるかもしれない。だけど、大木からはどこか揺らぎない自信のようなものが感じられる。
「大木はすごいな」
「なんでよ？」
大木は再び首を傾げた。
「だって、すごいプラス思考じゃん」
「そんなことないわよ。私はマイナス思考よ」
「嘘つけ。マイナス思考だったら、悪口とか耐えられないだろ」
俺は少しムキになってしまう。
悪口言われる原因が大木にあるとはいえ、マイナス思考では無いことは確かだ。俺だったら、とっくに引きこもりになっている。
そんな俺に、大木は呆れた表情になる。
「あんた、この式を知らないの？」
そう言うと大木はノートを見せてくる。
そこには２－（－３）＝５と書いてあった。
「マイナスはマイナスを反転させるのよ」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9787c/

２－（－３）＝５

2010年10月17日02時28分発行